

東北海区沿岸水温予報(2006年)

海域	経過 (12~3月)	現況(4月上旬~ 4月中旬)	見通し (4~6月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定線観測結果(太平洋) 3月 津軽暖流域の各層水温は、0.50,100m 層ともに平年よりやや高め、水塊深度は平年並、津軽暖流の東方への張り出し位置は平年よりやや強め。 定地水温 12月:平年並~やや低い 1月:やや低い~かなり低い 2月:かなり低い~極めて低い 3月:平年並~やや低い	定地水温 4月上旬中:やや高い~平年並	津軽暖流域の水温は平年並からやや高めめで推移する。また、津軽暖流の東方への張り出しは平年並からやや東偏する。	4月の日本海の定線観測結果では、対馬暖流の流勢は平年並である。親潮系冷水の勢力にやや弱まる兆しがみられる。定置水温は3月以降回復傾向にある。よって、4月以降の津軽暖流の勢力は現況を維持するものと考えられる。	2月中下旬を中心に本県周辺海域で低水温の状態が続いた(特に陸奥湾、津軽海峡、太平洋)
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	12月 表面:県北部 県南部沖合でやや低め、県中部沖合でやや高め 100m 深:県北部やや低め~低め、県中部 県南部でやや高め~高め 1月 表面:本県沖合全域でやや低め~極めて低め 100m 深:沿岸南部を除いてやや低め~低め 2月 表面:全域で、やや低め~極めて低め 100m 深:全域で、やや低め~低め 3月 表面:全域で、平年並~低め 100m 深:県中部沖合から県南部にかけてやや低め~低め	表面 県北部沖合やや高め、県中部でやや低めのほかは平年並 100m 深 県北部から県中部沖合にかけてやや高めの他は平年並	県北部は期間を通して平年並~やや高め 県南部から県北部は期間前半は平年並、期間後半は平年並~やや高めで推移する	県北部沿岸から徐々に、津軽暖流に覆われている。100m 水温予測によると、全域で平年並となり、正偏差の傾向にある。	1月下旬から親潮第一分枝が本県沿岸に接岸しており、3月1日には山田湾の湾奥に設置した定地水温計で1台の水が観測された。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	12月には表面・100m 深水温ともに、概ね平年並~高めであった。 1月~2月には、沖合海域を中心に、表面、100m 深とも平年よりやや低め~低めで推移した。 3月に入ると、親潮系冷水に広く覆われるとともに、南部沖合海域(38°Nライン周辺)には黒潮系暖水が波及し、この結果、表面水温は冷水の分布する海域を中心に平年より2~4 低め、南部沖合海域では1~2 高めとなったが、100m 深水温は全海域で2~3 低めとなった。	4月上旬の表面水温は3~13であったが、このうち北部海域(38°30'N~39°N)では表面・100m 深ともに5 以下の親潮系冷水に、南部沖合海域(38°Nライン周辺)では表面・100m 深ともに10 以上の黒潮系暖水に覆われた状態であった。平年に比べると、北部海域を中心に表面・100m 深ともに1~3 低めとなり、南部沖合海域では、表面・100m 深ともに1~6 高めとなった。	142°30'E 以東の北部沖合海域は平年よりやや低めで推移するが、他の海域では平年並又はやや高めで推移する。 [親潮系冷水の勢力にやや弱まる兆しがみられる一方、暖水は平年並の勢力を維持するものと考えられる]	「宮城県沿岸の海況予測モデル」により予測を実施した。2006年4月の類似年は1988年4月と1999年4月であった。	・3月下旬~4月上旬に定地水温観測(歌津・江島)で、平年より水温が極めて低い傾向が認められた。[沿岸域での親潮系冷水南下の影響と考えられる]
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	12月から1月にかけては沖合からの暖水波及が顕著であり、水温は平年並みで推移した。2月初旬に北からの親潮系冷水の強い波及がみられ、水温は平年より低めとなったが、波及は一時的なものにとどまった。3月には暖水の勢力が強まり、親潮系冷水の目立った波及はみられなくなり、水温は平年よりやや高めとなった。	黒潮系暖水の強い波及がみられ、本県北部海域では水温は平年よりやや高め、南部海域では平年より高めとなった。親潮系冷水の顕著な波及はみられないが、ごく離れの表面では平年よりやや低めの水温がみられる。	期間当初は暖水の波及が継続し、水温は平年よりやや高めで推移するが、その後、親潮系冷水が断続的に波及し、水温は平年よりやや低め~平年並みで推移すると予想される。	自己回帰モデルによると海域全体での水温の高め傾向は継続するも、その度合いは弱まる傾向があると予測された。宮城県以北には親潮の強い波及がみられ、暖水の勢力の変化に伴いその南下が見込まれる。	2月に親潮系冷水の強い南下がみられ、ところにより平年より極めて低い水温がみられた。
常磐南部 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	12月~3月にかけて黒潮は、強い南偏傾向で推移したため、北上暖水の勢力が弱まった。 12月~1月は表層から200m程度は鉛直混合による均一な水塊に覆われ、沿岸水温は「平年並み」~「低い」で推移した。2月は非常に強い親潮系冷水が南下したため沿岸水温は「やや低い」~「低い」で推移した。3月は表層付近で親潮系冷水が後退し、暖水塊に覆われたため、沿岸水温は「平年並み」へと変化した。	黒潮は依然として、南偏している。沿岸水温は平年に比べると、鹿島灘沖南部の一部に「やや低い」水温がみられるものの、おおむね「平年並み」である。	4月中旬から5月中旬の沿岸水温は、概ね「平年並み」~「低い」で推移し、5月中旬~6月は「平年並み」~「やや低い」で推移すると予想される。	類似年解析では4月から6月の海況パターンは「平年並み」となっている。4月中旬の黒潮はD型であるが、4月末までにN型に変化すると考えられる。そのため、沿岸域は親潮系冷水の影響を強く受けるが、黒潮の小規模な離接岸変動に伴い、黒潮系暖水が沖合から波及する。	2月に非常に強い親潮系冷水が南下した。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い (7.5%)	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	4.0~+5.9	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	+2.5~+3.9
やや高い (20%)	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	1.5~+3.9	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	+1.0~+2.4
平年並 (40%)	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	1.4~-1.4	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	+0.9~-0.9
やや低い (20%)	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	1.5~-3.9	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	-1.0~-2.4
低い (7.5%)	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	4.0~-5.9	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	-2.5~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~